

宇都宮市の重点課題 （第5回教育文化振興分科会検討結果）

（※）下線部は前回の分科会において重点課題候補にしてはどうかという議論があったもの

○家庭教育について

- ・ 家庭教育に無関心な親が増加
- ・ よその子のことも考える親、地域が必要
（運動会で感激するのは、家の中だけで子供をみるのではなく、よその子と一緒に自分の子を見るから。）

○親子のつながり、地域ぐるみの子育てについて

- ・ 子供が育つ場（学校等）が仲介者となって親子のつながりを促進
（例）教員・保護者・子どもの混合チームでスポーツをする
就学前（乳幼児、幼児のとき）の取組みも必要（生涯学習）
- ・ 親と子、先生、地域の人との交流の場の充実（世代間交流、多文化交流）
→親同士のつながりも促進
- ・ 学校を開放した地域活動・交流
- ・ 生涯学習センターの空き部屋や市立体育館等の有効活用

○青少年向けのケアについて

- ・ うつ、ひきこもりの青少年へのケア
- ・ 中学生以上には地域に参加する場が少ない。
- ・ 青少年の居場所づくりも必要。
- ・ 中絶率、犯罪率が高い。
- ・ 市民大学等を活用した青年向け教育プログラムの開発（デートDVについて等）
- ・ 13～17歳向けの対応ができる（彼らと話ができる）人材の充実

○自然のなかで子どもを育てることについて

- ・ たくましく生きる力、人間らしく生きる力を育むこと
→自然のなかで育てる機会をもつことで、創造・工夫する力を育てる

○ボランティアを活用した教育について

- ・ ボランティアを活用した地域教育
- ・ 地域での子育ての推進（団塊世代がボランティアで参加する等）
- ・ ボランティアのプロデューサ、コーディネータの拡充
- ・ 市民から教育について市にアイデアを発信する機会の増加

- ・ 様々な分野のボランティアを集めた講座が必要
- ・ 講座だけではなく、講座を受けた人が活躍できる受皿が必要

○文化資源の伝達・伝承について

- ・ 文化資源を日本人、外国人両方に伝える
(例) 他県の人に市の文化を伝えられる市民を増やす

○市内の情報共有について

- ・ 市のコマーシャル力(情報発信力)の強化
- ・ 子育て等に悩んだ場合、相談できる手段(電話相談等)があるにもかかわらず、市民にあまり知られていない。
- ・ 食育について市の情報発信、啓発も必要

○地域間格差について

- ・ 地域間の教育力格差への対応
(例) 地域での活動リーダーが必要、地域単位の組織(自治会など)の活性化が必要

○その他

- ・ 公立学校はダメという評価がなされることがある
→公立学校にも優秀な教師が必要

以上